

都心のキャンパス屋上でビールの原料となるホップを栽培 野村ゼミが「しのばずホッププロジェクト」と連携 地域循環型の都市農業実現に挑む

東洋学園大学(学校法人東洋学園 本部: 東京都文京区本郷 理事長: 愛知太郎)の現代経営学部「現代消費研究ゼミ」(野村拓也准教授)は、上野・不忍池周辺を舞台にした地域循環型プロジェクト「しのばずホッププロジェクト」と連携し、5月7日(木)、本学キャンパス1号館屋上においてホップの植え付けを実施しました。

■ **ブドウに続いてホップも栽培 循環型社会の実現を目指して**



「しのばずホッププロジェクト」は、台東区・文京区周辺のビルの屋上や壁面など空きスペースを活用してホップを栽培し、地元のマイクロブルワリーでクラフトビールを醸造・販売する地域循環型のプロジェクトです。東京大学大学院都市デザイン研究室(永野真義助教)が主導し、地域住民や近隣飲食店、社会福祉協議会など多様な主体が参画しています。

今回の植え付けには、東京大学大学院都市デザイン研究室のメンバーをはじめ、上野・不忍池周辺在住の方々、近隣飲食店関係者、文京区社会福祉協議会の方々など約25人が集まり、土づくりから植え付けまでを協力して実施しました。

当日は6個のコンテナに台東区で作られたコンポストたい肥を混ぜた土を入れ、「カスケード」種のホップを植え付けました。コンテナは屋上を囲う壁の一面に置かれ、自動灌水装置も設置されています。

■ 野村ゼミの屋上農業プロジェクトとの連携

野村ゼミでは、本学キャンパス1号館屋上において屋上菜園ブランド「IL NIDO DELLA FENICE(イル・ニード・デッラ・フェニーチェ)」を展開しており、2026年よりワイン醸造用のブドウ栽培にも取り組んでいます。ブドウは収穫まで約3年を要するため、1年で実るホップを同時並行で育てることにより、地域循環型の都市農業をより早期に本格化させる狙いがあります。

■ 野村拓也准教授のコメント

「都心のキャンパスという立地を活かし、地域の方々と共に循環型社会の実現に貢献できることは、学生たちにとって貴重な学びの機会です。ブドウとホップの成長を見守りながら、製品化まで取り組みを加速させていきたいと思えます。」

* 本リリースに関するお問い合わせ先 * 東洋学園大学 広報室 (担当: 清水)

電話 03-3811-1783 FAX 03-3811-1964 e-mail: koho@of.tyg.jp <https://www.tyg.jp/>